

# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 日本の伝統文化を愛する阿部さんにとっては「文楽」もまた愛すべき伝統。あでやかな着物姿の文楽人形といっしょでとてもうれしそう。着付け日本一に輝いたこともある阿部さんのきものの姿は凛として見事。



2



3

2 2003年にコンペで選ばれて商品化された『江戸開幕400年記念』の草木染扇子。草木染めならではの色合いと風合いが魅力的。東京の三越、そごうデパートで販売されたとあって、特に荣誉で思い出深い作品。

3 染色の専門学校でさまざまな染色技術を学んだ中でもいちばんのお気に入りには草木染め。その草木染め教室で指導にあたる阿部さん。自然から生まれるさまざまな色彩を愛し、楽しむ生徒たちで教室はにぎわっている。

## 日本の伝統文化を愛し、特にきものが大好きで、 デザインから染色、着付け指導までマルチに関わる。

阿部しのぶ 染色家・着付け指導

地元の国立大学で、先輩や親戚にも進学者が多いという理由で阿部しのぶさんは、山形大学教育学部を選び、中学校教員養成課程で美術を専攻した。ゼミは和田直人先生のデザイン研究室。当時から、きものデザインをはじめさまざまなコンペに多数出品し、2度東北地区代表になるなどすでにその分野での活躍は始まっていたようだ。教育実習を経て、教員よりも染色や着付けなど好きなきものに携わる仕事をしたいと確信した阿部さんは、大学卒業後も研究室に在籍しながら、コンペへの出品や以前から学んでいた和裁や着装の技術を深めることに熱心だった。その後、東京の染色の専門学校に編入し、友禅やろうけつ染めといった染色技術を身につけ、さらに草

木染研究所で草木染めを学び、助手をしながらコンペなどに作品を出品していたという。その旺盛な創作意欲とチャレンジ精神により、さまざまな出会いや貴重な体験を手に入れることができた。一つは、扇子デザイン。コンペに出品した作品が選ばれて商品化され、東京の三越、そごうデパートで販売されたのだ。また、10年前には着物着付けコンクールで日本一となり、着物の親善大使として2週間フランス他の国々を巡ることができた。小説家の浅田次郎先生との交流も生まれた。浅田先生は、日本のこと、日本の伝統文化のことが本当に大好きな阿部さんのことをいい意味で『日本原理教』と表現したそうだ。

そんな阿部さんは山大学生時代もやはり、

何事にも一生懸命で行動的だった。部活ではラグビー部のマネージャーを務め、家庭教師や絵画・彫刻のモデル、デザイン会社でのイラスト描きなど、アルバイト経験も数多い。そして、極めつけは“ミスさくらんぼ”としても活躍していた。さらに、授業の空きコマには茶道、華道、書道、和裁を習っていたというから本当に日本の伝統文化を愛して止まないという思いがうかがえる。それらの蓄積が現在の活躍を支えていることは言うまでもない。今後もこれまで通り仕事を丁寧続けることで、きものや草木染めの魅力を少しでも多くの人に伝えていきたいという。大学時代、すでに和田先生に“染色の技術を海外へ広めたい”と語っていた阿部さん、さらなる活躍と飛躍が期待できそうだ。

一途の成果